

で あ う

神楽坂と聞いただけで花街！あー私には関係のない所と、足を踏みこむ思いもまったく無かった街。

2003 年頃からアユミギャラリーがキッカケで今は月に何度も出向いていくようになっていく。これが神楽坂の街にであう最初の出来事で、平日にもかかわらず活気のある商店街、行きかう人も老若男女で生き生きしている。

一歩路地裏に入れば黒い塀と石畳の狭い道が迷路のごとく細く続いている。初めてこの路地裏に入り、思っていた出るであろう道に出ることが出来ずに引き返したことを思い出す。それが今では、ぶらり街中を歩いているとパンフレット片手に友人たちと神楽坂を散策している人に道を案内することもあり、ランチは何処がいいかも進めている私がいる。

そして、神楽坂下からずっと散策していくと、レトロな雰囲気の良い美味しいコーヒーがいただけるパクワウがある。残念なことにこの秋に取り壊されてしまう。毘沙門を通り過ぎ神楽坂上大久保通りの交差点を渡ると、惣菜屋さん、パン屋さん、和菓子屋さんと続き、更に上へと進むと大きな棒の木がある。

その目の前に時の流れを止めてくれそうな古びた建物がアユミギャラリーである。不思議なことにこの建物の中に一歩入ると時間の流れがゆったりとして心休る。

芽吹き頃の樺の木の下で、ダボダボズボンに白いシャツが似合う彼にであう。初対面なのに壁がなくフワッと空気のようなこの感覚は何？心惹かれるものを感じ気になる存在の彼であった。幾度となく会う機会が増え顔をあわせるのだがフッと寂しげな顔をすることもある。こんな時彼は何を考えているのだろうか！

その彼ともう会えない。

話すことも出来ない。

温もりを感じることも出来ない。

一度ギュッと抱きしめておけばよかった。

もう一度、もう一度温もりを感じたい。

一歩足を前に出してみると、また神楽坂で人にであうのだろう。

そして新たな顔をする神楽坂の街にであうのだろう。